『本多忠勝・忠朝』を大河ドラマに その1

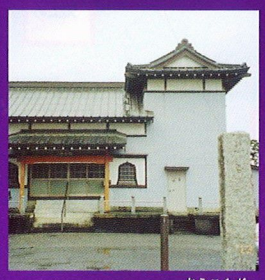
～ゆかりの史跡めぐり～

※初代上総大多喜城主
本多忠勝の居城

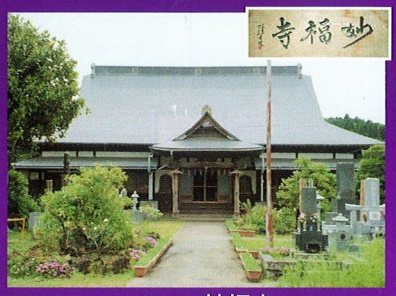
※本多家御膳・飯びつ
（東長寺所蔵）

熊姫（ゆうひめ）ゆかりの東長寺

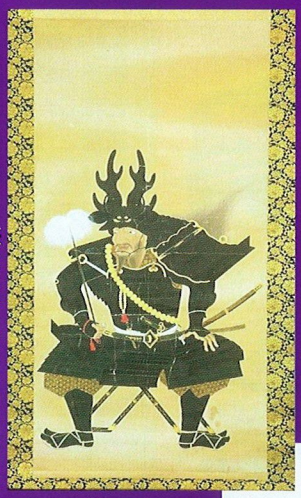
※大井戸　忠勝掘削の井戸



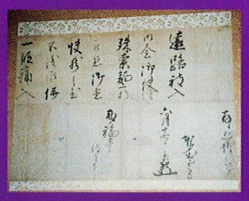
本多忠勝母の菩提寺 桜谷（おうこくじ）寺



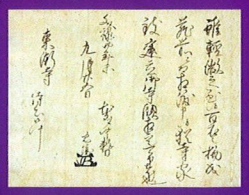
本多忠朝の書状を残す 妙福寺



※紙本著色本多忠勝画像
（良玄寺所蔵）



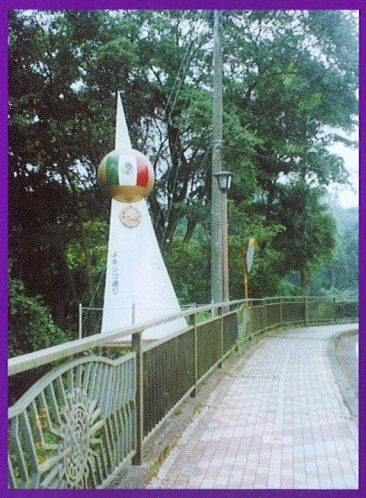
本多忠朝書状
（妙福寺所蔵）



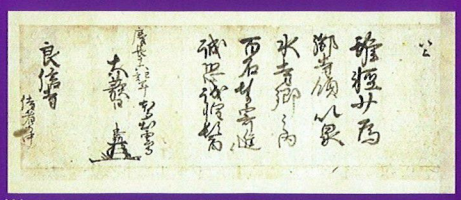
※本多忠勝寺領寄進状
（良玄寺所蔵）

・人力車　3,000円
・レンタサイクル　1回 300円
・手荷物預かり　100円

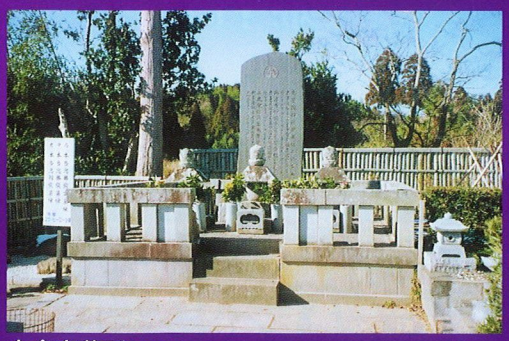
◆お問合せは観光協会
☎0470－80－1146



メキシコ大統領来町記念
メキシコ通り（S53）



※本多忠朝寺領寄進状（良玄寺所蔵）



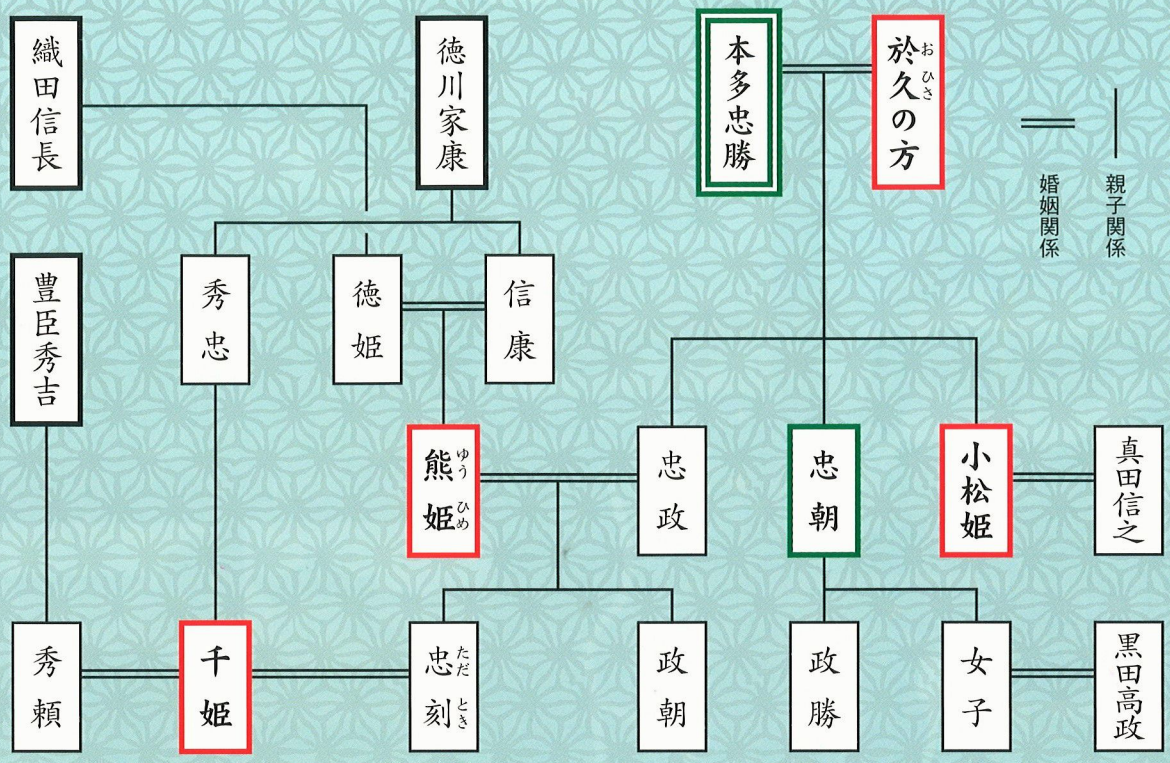
本多家墓所（良玄寺）

良玄寺

※ 画像提供：千葉県立中央博物館大多喜城分館

NHK大河ドラマ『本多忠勝・忠朝』誘致実行委員会
〒298-0292
千葉県夷隅郡大多喜町大多喜93
TEL 0470-82-2176

本多忠勝・忠朝に関わる人々



小松姫（長野市大英寺蔵）

○小松姫

本多忠勝長女。幼名を稲姫または於小亥と称した。1590（天正18）年、沼田城主真田信之に嫁ぐ。
女性ながら武道に優れ、昌幸、幸村親子への気遣いがエピソードとして残されるなど賢夫人の評判が高い。
夫信之は1622（元和８）年松代藩十万石の領主となるが、小松姫はこれに先立ち1620（元和６）年２月病にて逝去。

○於久の方

本多忠勝の正室。阿知和右衛門玄鐵の女。1569（永禄12）年、徳川家康の媒酌により婚姻。忠政、忠朝、次女（奥平家昌正室）、三女（本多信之正室）の生母。賢夫人としてその愛と勇気は近世の女性史を彩っている。1613（慶長18）年９月、大多喜城にて逝去。

忠勝と於久　坂下義憲画

本多家を彩る姫君たち

○千姫

1597（慶長２）年徳川２代将軍秀忠の長女として誕生。７歳にて豊臣秀頼に嫁ぎ、1615（元和元）年、大坂夏の陣にて豊臣家が滅亡すると翌1616（元和２）年、忠勝の孫、忠刻に嫁ぎ桑名に入城する。その後、父忠政が姫路城十五万石とされると忠刻とともに姫路城西の丸に入る。1626（寛永３）年、夫忠刻の逝去により江戸に帰り、1666（寛文６）年、70歳の波乱の生涯を終わる。

忠刻と千姫　坂下義憲画

○熊姫

1577（天正５）年、徳川家康の長男信康と織田信長の娘徳姫の次女として出生。
1590（天正18）年、本多忠勝の長男忠政に嫁ぎ大多喜城へ入城する。
本多政朝、忠刻の生母となり、1601（慶長６）年、忠政とともに桑名、姫路に移り、1626（寛永３）年、姫路城内にて逝去。

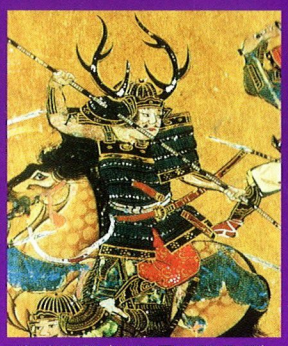
『本多忠勝・忠朝』を大河ドラマに その2

～本多氏16代 城主ゆかりの史跡をめぐる～

1 上総大多喜（千葉県大多喜町）

大多喜城

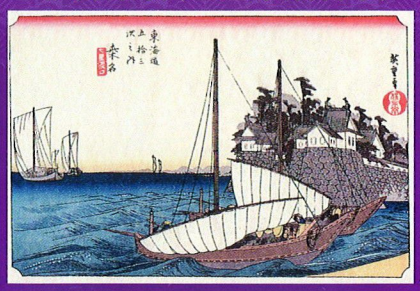
本多忠勝像（行徳橋）



本多忠朝（大坂夏の陣屏風）
大阪城天守閣蔵

初代 本多忠勝 10万石
天正18年（1590）～慶長６年（1601） 11年間
２代 忠朝 ５万石
慶長６年（1601）～元和元年（1615） 14年間
３代 政朝 ５万石
元和元年（1615）～元和３年（1617） ２年間

2 伊勢桑名（三重県桑名市）



東海道桑名宿
東海道五十三次之内
桑名七里渡口
廣重画

本多忠勝像
（吉之丸コミュニティパーク）

初代 忠勝・２代 忠政
10万石
慶長６年（1601）～
元和３年（1617）
16年間

3・6 播磨姫路（兵庫県姫路市）

千姫ゆかりの西の丸

姫路城

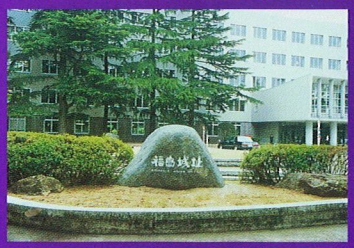
２代 忠政・３代 政朝・６代 忠国　15万石
元和３年（1617）～寛永15年（1638） 21年間
天和２年（1682）～宝永元年（1704） 22年間

4 大和郡山（奈良県大和郡山市）

大和郡山城址　石垣

４代 政勝・５代 政長　15万石
寛永16年（1639）～延宝７年（1679） 40年間

5 陸奥福島（福島県福島市）

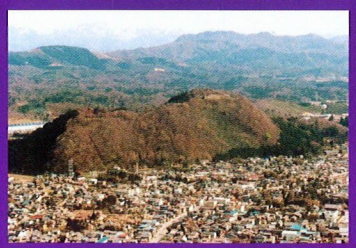


福島城址

福島城大手門跡

６代 忠国　15万石
延宝７年（1679）～天和２年（1682） ３年間

7 越後村上（新潟県村上市）



村上城址　遠望

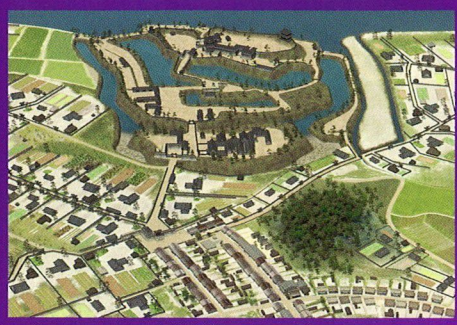
村上城址　石垣

７代 忠孝・８代 忠良　15万石・５万石
宝永元年（1704）～宝永７年（1710） ６年間

NHK大河ドラマ『本多忠勝・忠朝』誘致実行委員会
http://www.honda-tadakatsu.com/
〒298-0292
千葉県夷隅郡大多喜町大多喜93
TEL 0470-82-2176

～本多氏16代 城主ゆかりの史跡をめぐる～

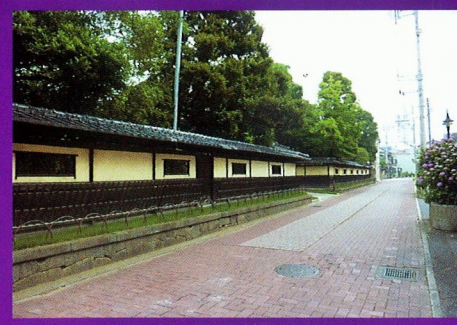
8 三河刈谷（愛知県刈谷市）



刈谷城復元CG画像

8代 忠良 5万石
宝永7年（1710）～正徳2年（1712） 2年間

9 下総古河（茨城県古河市）



古河市　武家屋敷

8代 忠良・9代 忠敞（ただひさ） 5万石
正徳2年（1712）～宝暦9年（1759） 47年間

10 石見浜田（島根県浜田市）

浜田城址　石垣

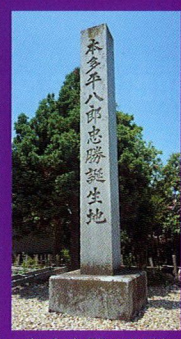
浜田市街

9代 忠敞（ただひさ）・10代 忠盈（ただみつ）・11代 忠粛（ただとし） 5万石
宝暦9年（1759）～明和6年（1769） 10年間

11 三河岡崎（愛知県岡崎市）

岡崎城

本多忠勝像
（岡崎公園）



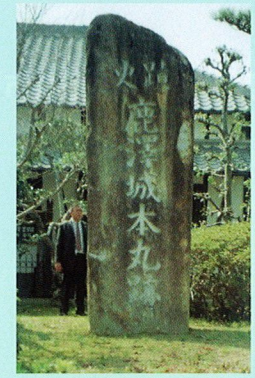
本多忠勝生誕地
（岡崎市西蔵前町）

11代 忠粛（ただとし）・12代 忠典（ただつね）・13代 忠顕（ただあき）
14代 忠考（ただなか）・15代 忠民（ただもと）・16代 忠直 5万石
明和6年（1769）～明治4年（1871） 102年間

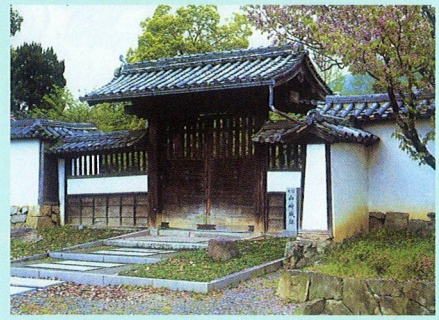
12 播磨山崎（兵庫県宍粟（しそう）市）

本多忠朝の後えい
初代 忠英より8代 1万石
延宝7年（1679）～明治4年（1871） 192年間

山崎本多家の祖忠朝公が
大坂夏の陣で着用された伝承の肌着
残留する血痕がある



鹿澤城本丸跡



播磨山崎城跡

秀吉を感服させた忠勝のエピソード

◎天正12年（1584）　小牧・長久手の戦い。秀吉軍8万、忠勝僅か500、決死の覚悟でトンボ切りの槍を抱え秀吉軍を攻撃。500の兵ではとても勝ち目はない。秀吉は部下に対し忠勝討取りを禁止。「わざと少ない兵でわが大軍に勇を示すは、わが軍を少しでもくい止め家康軍を遠ざけるためであろう。徳川にかわってわが家臣にしたいものだ」と。何としても自分の主君を勝たせたい忠勝の心意気に感服。

◎天正18年（1590）　小田原攻めの後、忠勝は秀吉より佐藤忠信の兜を拝領。この時「この兜を着用できる者はそなたしかおらぬ。ところで、秀吉の恩と家康の恩とどちらがそなたにとって重いか」と問われ、忠勝は涙ながらに「秀吉殿のご恩は海よりも深いものです。しかし家康殿は譜代の主君ですから比べようもありません」と答えた。家康に対するゆるぎない忠誠心に秀吉はただただ感服のみであった。

（三河後風土記正説大全）

本多氏歴代の居城地

※ 画像提供：各市教育委員会・山崎本多藩記念館・大阪城天守閣・本多英樹氏

平成26年8月発行

『本多忠勝・忠朝』を大河ドラマに　その3

～いくさ場での忠勝・忠朝のはたらき～

◇関ヶ原合戦図屏風（部分）　関ヶ原町歴史民俗資料館蔵　三扇中央

奮戦する本多忠勝・忠朝

←関ヶ原合戦手形血判状

関ヶ原合戦の三日前、忠勝は諸将の陣を訪れて、この戦に二心なき旨を誓わせた。
右より福島正則、京極高知、藤堂高虎、蜂須賀至鎮

馬防柵と鉄砲隊を指揮する本多忠勝

◇長篠合戦図屏風　大阪城天守閣蔵　四扇下部

◇関ヶ原合戦

慶長５年（1600）９月15日、徳川軍（東軍）と石田軍（西軍）が関ヶ原にて激突。天下分け目の決戦。午後東軍勝利に傾いた最中、西軍島津義弘は討ち死覚悟の戦法で敵中突破。東軍諸将は慌てて混乱。忠勝動ずることなく井伊直政らと愛馬三国黒に乗って追撃。この時三国黒は銃撃され、忠勝不覚にも落馬。忠勝ひるむことなく家臣（梶金平）の馬に乗りかえなおも追撃。当日400の小勢なれどあげた首級90。次男忠朝、曲がった刀が鞘に収まらぬ程の活躍で初陣を飾る。本多父子の活躍は、目ざましかった。

◇長篠合戦

天正３年（1575）５月21日、武田勝頼は長篠城を奪還すべく三河・遠江に侵攻。設楽（したら）ケ原にて、武田軍は騎馬隊で襲撃を試みたが、徳川・織田軍の馬防柵によって苦戦。さらに鉄砲の三段式一斉射撃を受けて決定的な敗北。忠勝は軍奉行として参戦。時に脂の乗った28歳。

NHK大河ドラマ『本多忠勝・忠朝』誘致実行委員会
http://www.honda-tadakatsu.com/
〒298-0292
千葉県夷隅郡大多喜町大多喜93
TEL 0470-82-2176

～父に劣らぬ忠朝の奮戦～

◇大坂夏の陣

元和元年（1615）5月7日、天王寺口徳川方先鋒大将を務めた本多忠朝は、豊臣方毛利勝永隊と対戦。本多隊は毛利隊に向けて発砲、銃撃戦となる。銃撃戦が激しさを増す中、本多隊は果敢にも毛利隊に突撃。毛利隊の一気の攻勢に本多隊は押され家臣は続々と討ち死。当主忠朝も毛利兵に包囲され壮烈な最期を遂げた。戦後、家康は奮戦した忠朝の死に落涙。

◇大坂夏の陣図屏風（部分）　大阪城天守閣蔵　　右隻三扇中央拡大

岸和田市だんじり土呂幕彫物に残る忠勝・忠朝の勇姿

姉川で眞柄十郎左衛門と本多平八郎忠勝一騎打（岸和田市筋海町提供）

本多忠朝　荒川熊蔵と一騎打（岸和田市上町提供）

忠勝・忠朝の力にあやかる名産品

銘酒「本多平八郎忠勝まけしらず」
大多喜町豊乃鶴酒造

上総大多喜城
最中十万石
大多喜町津知家

大多喜城十万石
栗家紋
大多喜町ふくだや

力みなぎる忠勝Tシャツ
大多喜町観光本陣

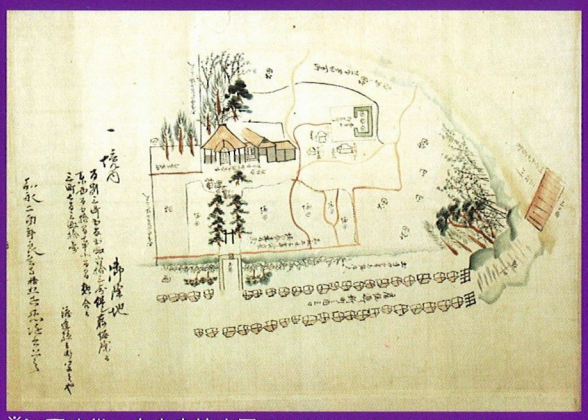
平成27年8月発行

『本多忠勝・忠朝』を大河ドラマに その4

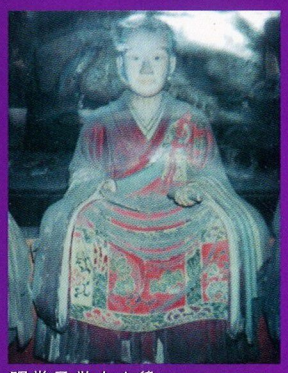
～忠勝・忠朝の人がらを偲(しの)ぶ～

初代上総大多喜城主　本多 忠勝（1548～1610）

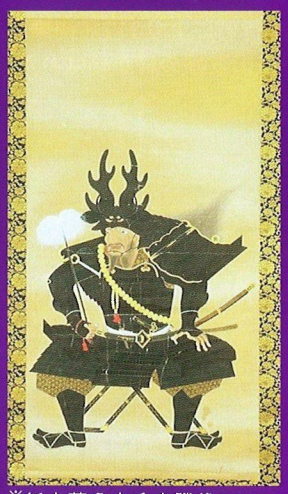
仏への信仰



※江戸時代　良玄寺境内図（大多喜町新丁　良玄寺蔵）



照誉了学上人像



※紙本著色本多忠勝像
（良玄寺蔵）

◎永禄6（1563）年　三河一向一揆に参戦する。浄土宗に改宗する。

文禄4（1595）年　照誉了学上人を招き菩提寺良信寺（現良玄寺）を建立する。画像を照誉了学上人に贈る。

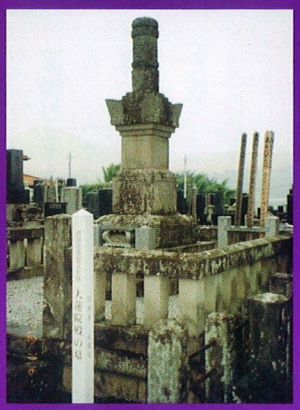
照誉了学上人…徳川家康の授戒の師であり、本多忠勝葬儀の折には、忠勝遺言により大導師をつとめ、二代将軍秀忠葬儀においても大導師をつとめ、芝増上寺17世となった高僧。

忠勝が肩からかけた大念珠（数珠）には、亡き武者たちへの鎮魂の祈りがこめられている。

娘への思い

小松姫画像（長野市松代町　大英寺蔵）

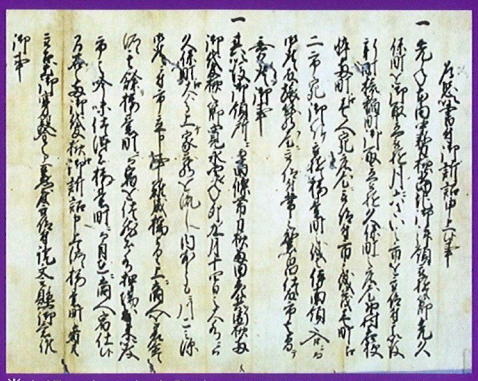
真田信之と小松姫　石像（沼田市　沼田城址公園）



小松姫　墓碑（沼田市　正覚寺）
大蓮院殿英誉晧月大禅定尼

◎小松姫は本多忠勝の長女で幼名「於小亥(おねい)」「稲(いな)」と呼ばれ、天正14年から天正18年頃徳川家康の養女として真田信幸（之）に嫁いだ。武勇に優れ、賢夫人として名高い。忠勝は生涯この娘に精一杯の愛情を注いだ。

市場(いちば)の開設



※市場の起こりを記す　市場関係文書（個人蔵）

夷隅神社境内で月の5・10日に開かれている現在まで続く六斎市

◎初代大多喜城主として、天正18（1590）年入封と共に城郭と城下町の建設に着手。「根古屋七町」という町割りをもとに、領民のくらしをよくするために商いを盛んにし、市場(いちば)を奨励した。上の文書はその起源を記すもので、市場(いちば)は現在まで引き継がれている。

※画像提供：千葉県立中央博物館大多喜城分館

NHK大河ドラマ『本多忠勝・忠朝』誘致実行委員会
http://www.honda-tadakatsu.com/
〒298-0292
千葉県夷隅郡大多喜町大多喜93
TEL 0470-82-2176

～忠勝・忠朝の人がらを偲ぶ～

2代上総大多喜城主　本多 忠朝（1582～1615）

異国の人々 ドン・ロドリゴ一行317名の救助

サンフランシスコ号乗組員遭難救助の絵（御宿町歴史民俗資料館蔵）

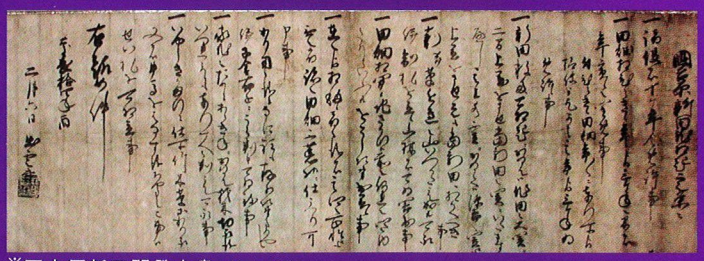
ドン・ロドリゴ一行上陸地　御宿町岩和田田尻海岸

◎異国の人々の救助

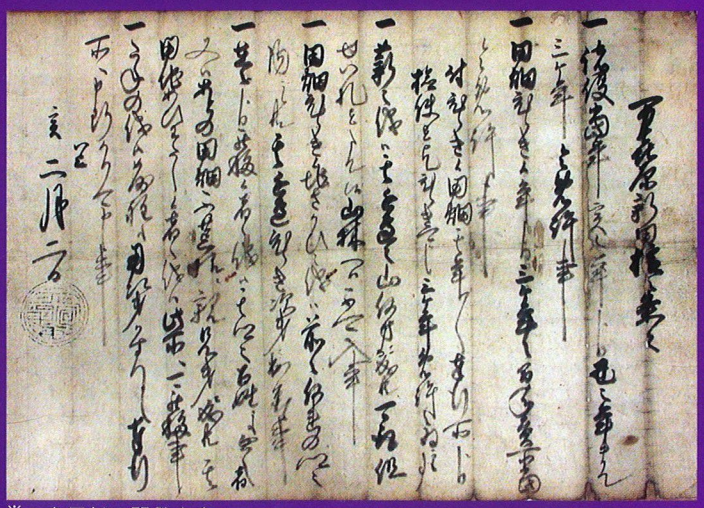
慶長14(1609)年9月、フィリピン臨時総督ドン・ロドリゴと乗組員373名を乗せたガレオン船サンフランシスコ号が嵐に遭遇し、現御宿町岩和田田尻海岸に漂着。時の大多喜城主本多忠朝のはからいと村人の献身的な行いにより317名の乗組員が救助された。以後400年、日本・スペイン・メキシコ三国友好の絆が結ばれた。

ガレオン船の模型（御宿町歴史民俗資料館蔵）

新田の開発



※国吉原新田開発文書（個人蔵）



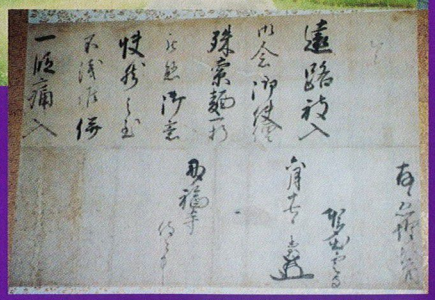
※万喜原新田開発文書（個人蔵）

◎新田の開発

城主本多忠朝は、領民に新田の開発を奨励。国吉原文書(慶長14年)には、諸役や一定期間年貢を免除すること、水不足のためには、どのため池も使ってよいこと、万喜原文書(慶長16年)には、他に種もみを貸し与えるなど領民への特典や温情が示されている。

陣中見舞の礼状

大多喜町新丁　妙福寺



本多忠朝書状（妙福寺蔵）

遠路御念入れられ御使僧、殊に索麺一折、御意に懸けられ、快然の至り浅からず候、併せて一段痛み入り存じ候、恐惶頓首

本多出雲守

六月十七日　忠朝（花押）

妙福寺　侍者中

◎大多喜城から遠隔の地に任のあった城主忠朝に妙福寺が使僧を遣わして、そうめん一折を届けさせた好意に対する礼状。忠朝が出雲守に任じられた慶長6年から慶長19年の間のもので忠朝のやさしい心配りが偲ばれる。

※画像提供：千葉県立中央博物館大多喜城分館

平成28年8月発行